

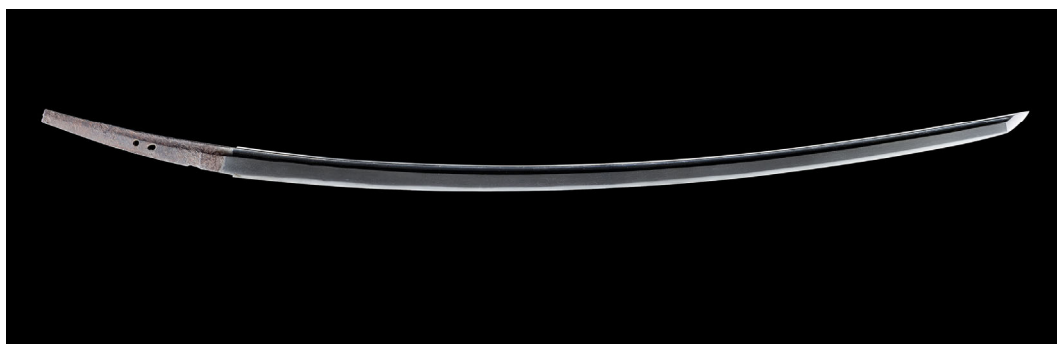


No. sma0052

(2021.6.21)

**サントリー美術館 開館60周年記念展
「刀剣 もののふの心」開催**

会期：2021年9月15日（水）～10月31日（日）



重要文化財 太刀 銘 口忠（名物膝丸・薄緑） 一口 鎌倉時代 13世紀 京都・大覚寺

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2021年9月15日（水）から10月31日（日）まで、サントリー美術館 開館60周年記念展「刀剣 もののふの心」を開催いたします。

我が国では、刀工の優れた工芸技術と武家の美意識を背景として、古代、中世以降、様々な名刀が生み出されてきました。近年、日本美術に対する関心が高まる中で、とくに刀剣は注目を集める分野と言えます。

サントリー美術館は、1961年の開館以来「生活の中の美」を基本理念として活動を重ね、本年秋に60周年を迎えます。日本の絵画工芸をみると、大名家の姫君の婚礼調度から民衆が使用した日常の飲食器、文房具に至るまで、身分階層を問わず、それぞれの暮らしの中で洗練された機能と美しさが息づいています。当館が開催してきた展覧会においても、歴史に名を連ねる武将に関連する美術や史料を多数展示してきましたが、刀剣や甲冑武具こそは、言うまでもなく武家の人生や暮らしにおいて大切にされた根幹を成すものであったと言えます。

この展覧会では、京都や近畿を中心に、由緒正しい神社や崇敬を集めてきた寺院に奉納され、伝来した貴重な刀剣を一堂に集め展示します。それぞれの刀剣には、

所持した武将とその英雄譚、鍛え上げた刀工、守り伝えた人々などについて、様々な伝承が大切に受け継がれてきました。

サントリー美術館が所蔵する狩野元信筆「酒伝童子絵巻」においては、武勇で名高い源頼光が率いる渡辺綱などの四天王が活躍します。今回の展示では、これらの刀剣にまつわる伝説についても、絵画や史料も加えてその意義を深く掘り下げます。さらに、臨場感あふれる主要な合戦絵巻や屏風によって戦に赴く武家のいでたちをご覧いただくとともに、調馬や武術の鍛錬など、日々の暮らしぶりなどにも着目し、武家風俗を描く絵画や史料を展示します。

この展覧会が、古代から中世、近世と続く我が国の歴史において、多くの人々を魅了してきた刀剣文化の奥深さや、武家の心に培われた凛々しい美意識を振り返る機会となれば幸いです。

《 展示構成 》

第1章：絵画に見るもののふの姿



重要文化財 酒伝童子絵巻 画／狩野元信 詞書／近衛尚通・定法寺公助・青蓮院尊鎮
三巻 室町時代 大永2年（1522） サントリー美術館

もののふ、すなわち武家の姿としてすぐ思い浮かぶのは、合戦に赴くいでたちに他なりません。「前九年合戦絵巻」や「後三年合戦絵巻」（ともに東京国立博物館）など、中世の合戦絵巻には、社会的にも大きな勢力となりつつあった武家が、甲冑姿で描かれています。

弓や槍と共に太刀をふるって戦う武家の姿は、刀剣が実戦における機能性を究めることによって洗練されてきたことを物語りますが、鉄砲の伝来によって合戦そのものが変化する様子もまた、近世の「合戦図屏風」にうかがうことができます。

また刀剣にまつわる説話を描いた絵巻には、邪悪なものを退治する勇猛な武家とともに刀剣が象徴的に描かれています。

サントリー美術館が所蔵する「酒伝童子絵巻」は、室町時代に狩野元信が描いた

絵巻です。武勇で名高い源頼光が率いる渡辺綱ら四天王が、刀剣によって酒伝童子を退治する一連の描写は、長大な物語の中でも迫力に富む場面となっていますが、今回が重要文化財指定後の修復を経た状態の初めての公開となります。

この章では、中世の軍記物から題材をとった屏風から近世の浮世絵の武者絵に至るまで、刀剣と武家の関わりを絵画の中に探ります。

【主な出品作品】

- ・前九年合戦絵巻 一巻 鎌倉時代 14世紀 東京国立博物館
- ・重要文化財 後三年合戦絵巻 飛騨守惟久筆 巻中
南北朝時代 貞和3年（1347） 東京国立博物館
- ・石山寺縁起絵巻（摸本） 谷文晁 七巻のうち第六巻 江戸時代 19世紀
サントリー美術館
- ・重要文化財 酒伝童子絵巻 画／狩野元信 詞書／近衛尚通・定法寺公助・青蓮院尊鎮
三巻 室町時代 大永2年（1522） サントリー美術館

第2章：甲冑武具と刀装具 もののふの装いと出で立ち

鎧と兜に代表される甲冑武具は、古代、中世における源平合戦の時代の「大鎧」から「腹巻」「胴丸」を経て、近世の「当世具足」に至るまで、歴史的変遷をたどることができます。それらの変化はまた合戦絵巻や屏風によって確認されます。

甲冑の様式における変遷にともない、刀剣の拵こしらえなど、様々な刀装具もまた、染織や漆工、金工など当時の最先端をゆく精巧な工芸技術によってみごとな装飾が施されました。一つ一つの甲冑武具や刀装具は、持ち主の格式を伝えるとともに、それぞれの時代を生きたもののふの心映えをうかがわせます。

【主な出品作品】

- ・重要文化財 紺糸威こんいとのおどし 胴丸 一具 室町時代 16世紀 京都・建勲神社
- ・朱漆塗矢筈札紺糸素懸しゅうるしぬり や はずだねこんいと す がけおどし 威具足 伝豊臣秀次所用 一具 桃山時代 16～17世紀
サントリー美術館
- ・重要文化財 牡丹造ぼたんづくり 梅花皮鮫鞆腰刀拵かい り ら ぎきめさやこしがたな 一口 南北朝時代 14世紀
京都国立博物館
- ・重要文化財 革包太刀かわづつみ（号笹丸） 太刀 銘□□国則宗（名物二ツ銘則宗） 一口
鎌倉時代 13世紀 京都・愛宕神社
- ・重要文化財 金熨斗刻鞆大小拵きんの しきざみさや 一腰 江戸時代 17世紀 京都国立博物館

第3章：武士と刀剣 武将が愛した名刀

現代に伝わる数多くの刀剣の中には、歴史上でも有力な戦国武将がかつて所持していた伝承をともなう、貴重な名刀が燦然と輝きを見せています。この章では源氏の重宝として名高い「膝丸」（大覚寺）や、織田信長が桶狭間の合戦で今川義元から奪った「義元左文字」（建勲神社）、さらには豊臣家ゆかりの「骨喰藤四郎」（豊国神社）など、時代を超えて名物として武家に愛され、数奇な伝来をたどった天下の名刀を心ゆくまでご鑑賞いただきます。

【主な出品作品】

- ・重要文化財 黒漆剣 一口 平安時代 9世紀 京都・鞍馬寺
- ・重要文化財 太刀 銘 口忠（名物膝丸・薄緑） 一口 鎌倉時代 13世紀 京都・大覚寺
- ・重要文化財 刀 金象嵌銘永禄三年五月十九日義元討捕刻彼所持刀／織田尾張守信長（名物義元左文字） 一口 南北朝時代 14世紀 京都・建勲神社
- ・重要文化財 薙刀直シ刀 無銘（名物骨喰藤四郎） 一口 鎌倉時代 13世紀 京都・豊国神社
- ・重要文化財 短刀 銘吉光（名物秋田藤四郎） 一口 鎌倉時代 13世紀 京都国立博物館

第4章： 祭礼と刀剣 祇園祭礼図を中心に

サントリー美術館には、制作年代が室町時代に遡る「日吉山王・祇園祭礼図屏風」や、江戸時代前期に制作された元襖絵の「祇園祭礼図屏風」が所蔵されています。にぎやかな祭礼を描く画中には「橋弁慶山」や「浄名山」など、武家にまつわる曳山も描かれており注目されます。中でも、とくに長刀鉾の壮麗な姿は、祇園祭礼における長刀の重要性を、これ以上なく象徴的に表していると言えるでしょう。この章では、祇園祭にみられる刀剣などを通して、祭礼行事と刀剣のかかわりをご覧ください。

【主な出品作品】

- ・日吉山王・祇園祭礼図屏風 六曲一双 室町時代 16世紀 サントリー美術館
- ・祇園祭礼図屏風 六曲一隻 江戸時代 寛永期（1624～44）末頃 サントリー美術館

第5章：古社寺伝来の刀剣 祈りを託された剣と刀

刀剣は武家が合戦において敵方と闘うための武器でしたが、鬼やもののけをも退治する刀剣の霊威をとまなう力は、中世の軍記物などを通して、永い間人々の信仰を集めてきました。刀剣は戦う武器としてよりも、身を守り、世の安寧を祈るものとして貴重な存在とされたのです。この章では、京都を中心に、由緒正しい神社や、崇敬を集めてきた寺院に奉納された貴重な刀剣を展示します。それぞれの刀剣には、刀工の銘に加えて、天皇や公家、僧侶、武将など、かつて奉納した人々の名が伝わるものも少なくありません。この章では刀剣に託された人々の祈りや、様々な伝承に思いを馳せていただきます。

【主な出品作品】

〈天皇・公家ゆかりの刀剣〉

- ・菊紋蒔絵毛抜形太刀拵 一口 江戸時代 18～19世紀 京都・仁和寺
- ・重要美術品 太刀 銘幡枝八幡宮藤原国広造／
慶長四年八月彼岸 附金梨地鳩紋蒔絵糸巻太刀拵 一口
桃山時代 慶長4年（1599） 京都・幡枝八幡宮
- ・重要文化財 太刀 菊御作 一口 鎌倉時代 13世紀 京都国立博物館
- ・重要文化財 太刀 銘大和則長 一口 鎌倉時代 14世紀 京都・泉涌寺

〈社寺に奉納された刀剣〉

- ・重要文化財 太刀 銘豊後国行平作 一口 平安～鎌倉時代 12～13世紀
京都・八坂神社
- ・重要文化財 太刀 銘出羽大掾藤原国路 金具御大工藤阿弥／
祇園社御太刀承応三（甲／午）年九月吉日 附糸巻太刀拵 三口の内一口
江戸時代 承応3年（1654） 京都・八坂神社

第6章： 武家風俗画の世界 絵画に見るものの心の暮らし



重要文化財 調馬・厩馬図屏風 六曲一双 桃山時代 16～17世紀初
滋賀・多賀大社

戦国時代など、長い歴史の中には武家が合戦に明け暮れた時代もありましたが、武家の日常の暮らしぶりは「調馬・厩馬図屏風」(多賀大社)などに見られるように、馬を調教したり、武術、剣術の鍛錬に勤しむ他にも、^{すごろく}雙六に興じ、茶を嗜むなど、人間らしい側面もありました。武家風俗画に登場する武家の晴れやかな表情は、合戦とはまた別の心のありようを見せています。

また江戸時代初期に多数描かれた「職人尽図屏風」には「甲冑師」「矢細工師」「馬具師」などとともに「^{とぎし}研師」や「^{つばし}鐔師」の暮らしがその工房とともに克明に描かれており、ひろく刀剣文化や武家の暮らしを支えた人々の実態を今に伝えてくれます。

【主な出品作品】

- ・重要文化財 調馬・厩馬図屏風 六曲一双 桃山時代 16～17世紀初
滋賀・多賀大社
- ・重要文化財 厩図屏風 六曲一双 室町時代 16世紀 東京国立博物館
- ・職人尽図屏風 研師他 六曲四隻 江戸時代 17世紀
サントリー美術館

【本展における展覧会関連プログラム】

◎学芸員による展示レクチャー

展覧会担当学芸員が詳しく展示作品を解説(スライド使用)

10月3日(日)、10月17日(日)

各日11時～、14時～(約40分)／参加無料(別途要入館料)／事前申込優先

※当館ウェブサイトよりお申込みください。先着順。空席がある場合に限り、当日参加可能です。

◎当館ウェブサイトでは、展覧会をより楽しむための動画を公開する予定です。

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。その他のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

サントリー美術館 開館60周年記念展
「刀剣 もののふの心」

▼会 期：2021年9月15日（水）～10月31日（日）

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼主 催：サントリー美術館、読売新聞社

▼特別協力：京都国立博物館

▼協 賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス

▼会 場：サントリー美術館

東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階

〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

▼開館時間：10時～18時

※金・土および9月19日（日）、22日（水）、23日（木・祝）、26日（日）は
20時まで開館

※いずれも入館は閉館の30分前まで

※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼休 館 日：火曜日（10月26日は18時まで開館）

▼入 館 料：

・当 日 券：一般1,700円、大学・高校生1,200円、中学生以下無料

・前 売 券：一般1,500円、大学・高校生1,000円

※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソン
チケット、セブンチケットにて取扱

※前売券の販売は展覧会開幕前日まで

※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割 引：

・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引

※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：9月16日（木）・30日（木）、10月14日（木）・28日（木）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施

（お点前の時間以外は入室不可、及びお抹茶とお菓子は召し上がれません）

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：suntory.jp/SMA/

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕石田 〔広報〕吉岡

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2021年6月21日（月）から https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

以 上